

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105180
法人名	(株)メディックス
事業所名	グループホームパートナーハウスすずらん
所在地	松山市高井町1296-1
自己評価作成日	平成27年5月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

個々の思いや意見を大事にし、今までの生活スタイルをなるべく崩さない様支援している。また夢企画では入居者様の希望を少しでも叶えられるよう そしてゆったりと入居者様のペースに合った生活をしていただけるよう日々頑張っております。 シーズー犬のゆう太を毎日待って下さっている入居者様の為に老体に鞭打ち、エレベーターで2階に上がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●中庭にある、いす・テーブルで利用者はお茶の時間を楽しまれている。家庭菜園も作っており、野菜づくりに詳しい職員が中心となり、季節の野菜を植えている。調査訪問時には、管理を日課にしている利用者が畑の草刈りを行っていた。庭の落ち葉の掃除等も、職員と一緒にやっている。玄関やホールテーブルには季節の花を活けており、利用者は、あじさいを見て「梅雨だね」と話していた。事業所内は風通しがよく、夏は涼しく過ごすことができ、利用者は「気持ちがいい」と話していた。
●利用者の希望を叶える「夢企画」を継続して取り組んでいる。利用者それぞれの担当職員が中心となり、利用者話し合い、お墓参り、買い物、食事等に1～2ヶ月毎、1対1で出かけられるよう支援している。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -
“ 愛媛県地域密着型サービス評価 ”

事業所名 グループホームパートナーハウスすずらん

(ユニット名) かえで

記入者(管理者)

氏名 渡部 千代美

評価完了日

平成27年 5月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) <運営理念> ・利用者の人格と価値観の尊重 ・利用者の自己決定の尊重 ・安心と意欲もてる自立生活への支援 ・家族、地域社会との交流支援。と掲げている ・「あるがまま」を笑顔で支える家族と共に (外部評価) 新人研修、法人・事業所のミーティング等で理念について話している。管理者は「利用者の生活にあわせた介護、利用者中心の介護をしてほしい」と職員に伝えており、自らが実践してけん引している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 回覧板をまわしたり、ゆう太の散歩時に近所の方と会話をしたり溝掃除や公民館の掃除に参加して交流をしている。地域の夏祭りへの参加も積極的に行っている。 (外部評価) 幼稚園・小学校の運動会、地域の夏まつりや溝掃除への参加、秋祭り時のお接待等して地域交流している。近年では、散歩時、挨拶だけでなく農作業の手を止めお話して下さる方が増えている。管理者は「出向くだけでなく、気軽に来ていただける事業所にしたい」と考えており、職員は「駐車場で催し物を行って事業所に来ていただくきっかけ作りがしたい」とアイデアを持っていた。障害者を雇用しており、居間や居室の掃除、ゴミ捨て等を担当している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) ・同系列(かとれあ、こすもす、なでしこ、道後)と、5施設合同の納涼祭を開催している。消防訓練の時など近隣の方に声を掛けホームを訪ねて頂き認知症の理解をして貰えるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>利用者の活動状況などを報告し外部評価の結果等も報告している。この地域で初めてキャラバンメイト養成講座を運営推進会議に取り入れた。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>会議には、町内会長、民生委員、市の担当職員が参加している。会議時、利用者手作りのぼた餅をお出した際には、民生委員から「お菓子づくりの得意な婦人会の方に手作りおやつ講習をしてもらってはどうか」と提案があった。地域の方が講師を紹介してくれて今回は、「熱中症」についての講義を予定している。外出行事の前に会議を行った際には、ご家族4名の参加があった。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>公民館、支所などを通じ、地域にあるサービスや行事などの助言等ももらっている。運営推進会議の時も色々助言して頂いている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>キャラバンメイト養成講座開催について地域包括支援センターに相談し、協力を得て運営推進会議時に行ったことがある。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ホームでの話し合い、勉強会への参加、マニュアル作成等で身体拘束について理解し実践している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>利用者の状態によっては車いすで過ごす際、安全ベルトを装着するケースがある。状態が落ち着いている時には、ベッドで休めるように支援しながら様子を見ており、毎月「抑制が必要か」「拘束ゼロになる方法」を職員で検討し、ご家族には、利用者の様子や検討結果を知らせている。ふらつきが見られる場合でも、ご本人の動きたい意思があれば居室にセンサーを設置して、ご本人の意向を大切に支援に努めている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 虐待防止の勉強会に参加し、ミーティング等にて情報共有を図るよう努めている。 マニュアル作成している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) ・成年後見制度を利用される方に対し関係者への連絡調整をおこなっている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者、家族が十分に納得できるまで個別に誠意をもって対応にあたっている。また不明な点等あれば、いつでも相談に応じている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱の設置や、苦情等があれば、すぐに職員及び管理者が誠意をもって対応、対処するよう努めている。また、入所の際ホームの苦情相談窓口及び第三者機関相談窓口(松山市介護保険課など)の連絡先についても説明している。 (外部評価) 以前のことではあるが、職員の言葉かけにご家族が不信感を持たれたようなことがあり、その後、来訪時や電話での対応等、言葉遣い等に気を付けている。ご家族は、「目やにが出ている」「最近笑わない」「口腔ケアは大丈夫か」「洋服が前回と一緒」等、気になることをよく話してくれており、今後はさらに、ご家族が参加できるような行事を企画して、意見を聞く機会を増やしたいと考えていた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			一方的ではなく、職員の意見に耳を傾け一緒に話し合い協力しあう姿勢で対応している。	
			(外部評価)	
			職員は、関心がある研修を選び参加しており、腰痛がある職員は、ボディメカニクスについての研修時に習った技術を現場で採り入れていた。職員同士でケアのアイデアを出し合いながら取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			勤務状況、実績など、定期的に把握し、経験に応じた研修の受講を積極的に行えるよう取り組んでいる。また、才能を発見し強化している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			勉強会への参加や資料作成などで情報共有を図り、能力向上に努めている。又資格試験の補助等を行っている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価)	
			他のグループホームへの定期的な勉強会や交流会、同系列の(かとれあ・こすもす・なでしこ・道後)等との行事を交えた交流会などを行っている。また、施設合同<運営会議>にての勉強会を行っている。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			できる限り話をする機会を設けて、気持ちを受けとめる様努力している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) いつでも相談しやすい雰囲気をつくり、相手の気持ちをくみ取りながら一緒になって取り組んでいく努力をしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居者本人と家族の希望、要望をふまえた上でどのようなケアプランが必要なのか話し合うようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者に裁縫やカラオケなど、趣味や得意としていた分野について話しをしながら一緒に実施することで、職員は学んだり、アドバイスを受けていたりしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状態についての情報を共有し、行事や来所時等に話しをするなど、本人への支援方法などについて話し合っている。又体調の変化が観られる時には必ず家族様に電話にて連絡している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 自由な面会時間や気楽に尋ねてきやすい雰囲気作りに配慮している。生まれ育った所に行きたいときにはいけるようにしている	
			(外部評価) 友人等の来訪時には、居室に案内してお茶を用意する等して、ゆっくり過ごせるよう気配りをしている。調査調査日、利用者のお一人が地元の友人宛に書いた手紙を事務所に持って来られ、職員に「出しておいて」と託していた。職員が切手を貼り投函するようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) ホールにて同じテーブルに座る人の位置を配慮したり、いろんな話題を提供するなど、声かけをおこなっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ・退居された後でもいつでも遊びに来れるような雰囲気を作っている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 意思疎通が図れる場合は、本人、家族と話し合い意見を尊重している。意思疎通が困難な方は、何を求めているかを察知できるよう、職員同士話し合い等行い日々努力している。	
			(外部評価) フェースシートには、利用者の顔写真を貼り、性格、習慣、ケア時の注意点等を記載しており、職員は、利用者の言葉や表情を見ながら、ケアの工夫について話し合い取り組んでいる。	管理者は職員に、日々の利用者の言葉等を記録に残すように話している。さらに、利用者の思いや意向についての情報収集に工夫して、利用者個々が望む暮らしの実現に取り組まれてほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居の際、家族または本人に情報を得ている。また意思疎通が難しく、家族のいない方の場合、入居前の施設等から情報を得ている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 職員全員が把握し状況に応じて対応にあたっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>個々人の状況に応じ、本人及び家族と話し合い計画を作成するよう努めている。来訪時には、近況と共に家族へケア内容等の説明を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護計画は、利用者・ご家族・ユニット職員・看護師・介護支援専門員の意見等を取り入れて作成しており、毎日、○×△でモニタリングを行い、月末に評価する仕組みを作っている。先月から計画を実施できなかった場合には理由を書く欄を設けていた。利用者の様子を見ながら3～6ヶ月ごとに計画を見直している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>毎日介護記録を記入し、また別に職員間の連絡ノートや申し送りにて情報を共有している。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>本人、家族の要望に対して、その都度柔軟な対応を行っている。</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>避難訓練、地域行事の参加、地域のボランティアなど、積極的に参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>本人及び、家族の希望する医療機関へ適時受診できるよう支援している。</p>	
			(外部評価)	
			<p>以前からのかかりつけ医に、ご家族や看護職員が付き添い受診しており、利用者の状態によっては、往診や夜間も対応可能な協力医で診てもらおうよう変更するような方もある。往診時には、事業所の看護職員が利用者の日々の健康状態を伝えている。歯科・眼科は、必要時に往診がある。歯科医がご家族の来訪日に合わせて訪問診療を行い、説明するようなこともある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	(自己評価)	
			<p>個々に応じて看護職員に相談、協力しながら対応にあっている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>必要に応じ、終末期については家族や医療機関また職員等で話し合っている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	(自己評価)	
			<p>入院された際、定期的に面会を行い洗濯物等の交換を行い、ドクターあるいは、看護師と情報交換を行い早期退院等に努めている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居時、事業所の「看取りの指針」を説明し、利用者・ご家族に終末期のあり方について希望等を聞いている。看取りまでの支援を希望する利用者が多く、去年は2名の方の看取りを支援した。ご家族は頻繁に利用者に会いに来られ、利用者の居室に泊まる等してともに見送られた。職員は、看取りについての研修で勉強したり、看護師・医師とも話をしており、不安や心配事があれば管理者が聞く等、フォローし合って支援している。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	(自己評価)	
			<p>必要に応じ、終末期については家族や医療機関また職員等で話し合っている。</p>	
			(外部評価)	
			<p>入居時、事業所の「看取りの指針」を説明し、利用者・ご家族に終末期のあり方について希望等を聞いている。看取りまでの支援を希望する利用者が多く、去年は2名の方の看取りを支援した。ご家族は頻繁に利用者に会いに来られ、利用者の居室に泊まる等してともに見送られた。職員は、看取りについての研修で勉強したり、看護師・医師とも話をしており、不安や心配事があれば管理者が聞く等、フォローし合って支援している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) ほとんどの職員は応急手当の講習をうけており、また急変時対応マニュアルを作成している。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 地域の方々の協力を得、避難訓練を実施、運営推進会議による町内会との連携体制等、日頃から働きかけを行っている。	
			(外部評価) 消防車・地震体験車に来てもらって避難訓練を行った際には、地域にも回覧板で知らせた。事業所では今年は、6月と12月に夜間の火災想定避難訓練を予定している。地区内にある系列事業所での避難訓練時には、事業所から職員・利用者が参加した。その際には地域の方は避難後の利用者の見守りをされた。近所の方からは、「なんかあったら放っておかせん」と言ってもらっている。町内会からは、災害時の地域の避難受け入れ先として依頼があり、ホールの一室をお貸しできることを伝えている。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 記録等の個人情報事務所の鍵付きの棚で保管しており、職員による個人情報の秘密保持も徹底している。入居者への言葉かけも相手の立場に立った気持ちで対応するよう心がけている。	
			(外部評価) 利用者の希望を叶える「夢企画」を継続して取り組んでいる。利用者それぞれの担当職員が中心となり、利用者との話し合い、お墓参り、買い物、食事等に1~2ヶ月毎、1対1で出かけられるよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) わかりやすく、ゆっくりとしたペースでお話しし、自己決定を尊重しながら、生活の支援を行っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 無理強いせず、本人のしたい事を取り入れながら、支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 本人、家族の希望にて、理美容(カット、髭剃り等)美容師に訪問してもらい実施している。洋服など本人の好みに合わせて購入したり、一緒に買い物に行ったりしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事の準備等は一緒にできる方があまりいらっしゃらないがお盆拭きやエプロンたたみなど出来る方にして頂いている。	
			(外部評価) 宅配業者の献立に沿って食材が届くようになっており、事業所で調理している。調査訪問日、管理者は献立に利用者がお好きな豆や新玉ねぎの入った季節野菜のかき揚げを追加するよう、指示していた。さらに、かき揚げには、天つゆか塩か個々に好みを聞いていた。食前には、利用者・職員の代表が中心となり、みなで口腔体操を行っていた。食事の感想を毎日述べる利用者があり、言葉の調子や内容から味付け等の改善点を探り、食事作りの参考にしている。利用者が下膳、お盆ふき、おしぼり、エプロンたたみ等を行えるような場面を作り支援している。誕生日にはケーキやお寿司等、利用者の希望のメニューを作りお祝いしている。調査訪問日には、歯を固く閉じて食事することを拒む利用者に、職員はゆっくりした態度で食事内容を説明したり、世間話をしながら時間をかけて食事できるよう介助していた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事量、水分量の把握に努めている。バランス良く栄養摂取できるよう、食事の形態、量について常に検討し、必要に応じ主治医の意見を聞いている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 夜間は確実に実施できているが、毎食はできていないこともある。食物残渣はないか、また服薬後の確認等はおこなっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人に合わせ、プライバシーを配慮しながら排泄パターンを把握し対応している。	
			(外部評価) 立つことができる方には、トイレで排泄できるよう支援している。おむつの状態で退院となった利用者にも、立つことができるようであればトイレで排泄できるような支援に取り組んでいる。居間には3ヶ所のトイレがあり、利用者は、居室に一番近いトイレを好んで利用されるようだ。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日の食事になるべく多くの野菜を取り入れる。1日1000ℓ～1500ℓの水分補給を促す。また食前の口腔体操の時 腸トレ体操も取り入れている。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 無理強いせず、本人の希望を聞きながら入浴していただいているが、最低週2回以上は入っていただくよう支援している。	
			(外部評価) 週に2～3回入浴ができるよう支援している。石鹸を付けずに体を洗う等、個々の入浴習慣を大切にして支援できるよう努めている。お好きなシャンプーを使用する方は、ご家族が用意したり、買い物時に購入している。職員は利用者や世間話したり、お好きな歌を一緒に歌ったりしながら、ゆっくり楽しい入浴時間となるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 本人の希望により、休んでもらうようにしている。また、夜もテレビをみたりと個人のペースでしてもらっている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人ひとりの現在使われている薬を分かるように記載している。また薬の効能書きをファイルに同じ副作用等が分かるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 入居者同士が楽しく会話できるよう環境づくりをしたり、散歩をしたり、おりがみ、壁画作成などをしていただいている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天候がよく体調のよい時は、散歩、外気浴ができるよう努めている。	
			(外部評価) 近所の公園や神社まで散歩している。車いすを使用する利用者は、車の通りが少ないところを選んで外に出られるよう支援している。又、季節に応じて桜、あじさい、梅の花見、紅葉狩り、ぶどう狩り等を楽しめるよう支援している。普段は、刻み食で食事する利用者も、いちご狩りに出かけた際には、苺をそのまま食べるような姿も見られ、ご家族に写真をお見せすると、とても驚かれたようだ。外出行事時には、ご家族の参加を促しているが、中には遠慮する方もあるようで、今後さらにご家族が参加しやすい外出となるよう検討したいと話していた。今月は吉海バラ公園に出かける予定がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 現在 ご自分でお金を管理されている方は1名しかいないが希望があれば いつでも一緒に使えるようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人希望時、電話をかけてもらったり、家族、友人からの電話は引き継ぎを行っている。お手紙は職員が預かりポストに入れている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 共有空間はすべて家庭的な雰囲気であり、また常に季節の草花を生けるなどしている。又壁は季節に応じた壁画等見られるようにしている。</p> <p>(外部評価) 中庭にある、いす・テーブルで利用者はお茶の時間を楽しまれている。家庭菜園も作っており、野菜づくりに詳しい職員が中心となり、季節の野菜を植えている。調査訪問時には、管理を日課にしている利用者が畑の草刈りを行っていた。庭の落ち葉の掃除等も、職員と一緒にしている。玄関やホールのテーブルには季節の花を活けており、利用者は、あじさいを見て「梅雨だね」と話していた。事業所内は風通しがよく、夏は涼しく過ごすことができ、利用者は「気持ちがいい」と話していた。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 気の合った利用者様同士、食後も同じテーブルでおしゃべりされている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 個々人によって生活用品を持ち込まれている方もおられる。家族様が好みの物を持ち込まれている方もおられる。</p> <p>(外部評価) 田園風景の広がる中に建つ事業所で、居室から見える景色が気に入って入居を決めたような方もある。ご主人の位牌や遺影を置いている方は、毎日ご自分でお茶を供え手を合わせている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) 廊下には、すべて手すりが付いており、トイレのスペースも広く、すべてがバリアフリーになっている。</p>	